

## 『 言葉の矢印 → 』

6人の子どもと住んでいると話すと、「6人の話を聞くのは大変でしょう」と言われる。しかし、聖徳太子のように何人もの話を同時に聞くことはない。3人以上から同時に話しかけられることはまったくない。それどころか、こちらが話しかけてもイヤホンをしていて聞いていない時もある。「ママ、ママ」とひっきりなしに話しかけてくるのは、3才の子だけである。

子どもと一緒に過ごす時間の中でどれほどの言葉を交わしているだろう。0才から3才までの間は起きている間抱っこしておんぶして話しかけていた。子どもも泣き、言葉を覚え話しかけてくれた。「ママ、ママ」と。

幼稚園に行くとき約4時間～6時間は先生とお友達と過ごしている。小学生・中学生になると、約9時間学校か外で過ごしている。高校生・大学生・社会人ともなると、12時間以上家にいない日が多い。彼らのホームグラウンドはもう家ではなく、外にある。一番大切なことは、一番大切な友達と話しているのだ。

23才になる長男と今週話しかけたのは「ご飯食べた?」「朝何時?」だけであった。小学校6年生の三男には「宿題終わった?」「明日の準備した?」「早く寝なさい」この3つの言葉を毎日毎日繰り返している。そして三男は「うん」か「まだ」だけ返す。

三男が3才の時の会話のシートが10枚ほど出てきた。新小岩幼稚園にご指導にいらしていた滝沢武久先生がご考案された会話シートに当時の未就園児クラスで、母と子の日常の会話を書き留めていた。このシートを書こうとすると、日々の何気ない会話を意識して記憶しなければならない。素通りしてしまうひとコマをストップして考える。「ああ、こんなことを考えるようになったのだ」とその子に意識を向ける。先生はこの作業を通じて子どもの成長を知るということをシートに込められたのだろう。

今私は子どもたちの言葉に意識を向けているだろうか。自分の言葉を意識しているだろうか。日常の過ぎ去ってしまうことばの矢印は大切な子どもとの記録である。3才も23才も私に何かしらの矢印を放つ。毎日同じ言葉をうわの空で返してはいないか。「ママ、ママ」「ママ、聞いて」と私に矢継ぎ早に放たれる3才の子の矢たち。こんなにたくさん話しかけられるのは今のうちだけとかみしめている。



グループ名 金G

なまえ いのほ子 ~~あ~~

いっしょ

2009.

9月1日

親と子の会話

親 (子ども)

子ども (親)

22、  
せみ いまぐち  
ちった。

うん、  
ああしく  
ちったとちった

せみ 声したあ。

せみ  
ちった  
ちったあ。

「あけあ」も  
ちったあ。

「あけあ」  
ちったとちった

うん。せみか  
あて ちったあに  
ちったあ ちったあ  
いっしょ。

初めてみられた動作や言葉

あけあ → あ → あ  
あけあ → あ → あ

自分たちの現像

自分なりに道理を考へあしているのよ